

歴史秘話



マップ

⑧【狼地獄】

その昔、西町に狼が一匹迷い込んだ。住民たちはこの狼を追い詰め、崖下に転落させ退治した。以後、一帯は狼地獄と呼ばれ、「俊敏な狼でさえ命を落としたのだから近づいてはいけないよ」と、親から子へ語り継がれている。

⑦【禅寺の坂】と石垣

寛永13年（1636）の八尾の町建てで西町は繁栄し、月9回市場（九斎市）が開かれた。保内、室牧、山田の人々や富山、高岡の商人がこの坂を通して西町に入った。平成14年に国土交通省「手づくり郷土賞」を受賞している。最大高低差40メートル、全長400メートルの石垣は八尾町を象徴する景観です。

⑥【甚九郎の渡し】じんくろうのわたし

昔この地は「甚九郎の渡し」と呼ばれる渡場があった。人々はここで小舟に乗って川を渡り、八尾に入った。天保14年（1843）の「八尾町絵図」に甚九郎橋が描かれている。甚九郎橋の架橋以後、渡し船はその使命を終えた。

⑤【金毘羅堂】宝幢寺跡地街路

かつて宝幢寺の庫裏だったところで今も町民の信仰が篤い。曳山祭礼が終わると、西町の役員が「火祭り」と称してここに集まり、曳山巡行の無事を祝う遺風が残る。現在の金毘羅堂の前面道路には、江戸時代の終わりに宝幢寺が建立された。和尚龍淵は立山信仰にゆかりが深い真言宗の学僧だった。後に寺は移転し、明治18年（1885）に西町通りの延長となる街路が開通した。実は齢140年の若い通りなのである。

⑨【天満宮】

「禅寺」の天神と称される菅原道真の画像（渡唐天神）あり。江戸期より全町の寺子屋の崇敬がよせられ、現在も毎年5月の第4土曜日に祭礼が行われる。

⑩【宗禅寺】禅寺

寛文年間（1661）に創立されたが一時空寺となり、町民信徒が飛騨より尼僧宝庵智鏡を迎えた事が尼僧寺の始まり。所蔵の華嚴釈迦像は非凡の作と伝えられる。

⑪【西町曳山蔵】

明和8年（1771）西町は他町に先駆けて花山を廃し、今日に伝わる豪華な「八つ棟山」に改め、恵比須神を鎮座させて曳き回した。祭礼日は毎年5月3日（祝）

⑫【お忍び道】遊郭への崖沿い小道

お隣の鏡町に遊郭が出来たのは、明治33年（1900）西町の通りを歩いて遊郭に向かうのは、人通りが多くてさすがに気が引けたようだ。そこで、客は禅寺坂からそのまま崖沿いの裏道を通り、人目を忍んで遊郭に通ったという。

⑭【弁天通り】

こんな小さな横丁も「弁天通り」という立派な名前を持っている。開通した明治43年（1910）当時、西町側の突き当りにあった「弁天座」という劇場に由来する。観客で賑わったが、大正末期閉館となり、通りの名だけが残った。

⑮【米屋少兵衛宅跡】八尾町発祥の地

寛永13年（1636）、剛胆で名を馳せていた財産家の少兵衛は、加賀藩から許可をもらい八尾の町建てをした。少兵衛はここに邸宅を建て、米屋を営んだことから米屋少兵衛と呼ばれるようになった。

⑯【四十物横丁】

あいものよこちょう
少兵衛は、二つの通りを開いて西町・東町とした後、自邸の前面に両町をつなぐ通りを設けた。この通りは八尾から笹原に抜ける道として賑わった。塩魚類を取り扱う店があったことから「四十物横丁」と呼ばれた。

④【高札所跡】二股の辻

宝幢寺跡地の街路開設前は、間名寺から東町、西町へ向かう人は必ずこの二股の辻を通った。往来で賑わったこの辻には、天保14年（1843）の「八尾町絵図」によると、高札所が置かれていた。ここでお上からのおふれを見た。

③【寺子屋 | 金泉寺屋】きんしょうじや上野青果店

江戸時代から八尾では寺子屋が盛ん。天保・弘化（1830～48）の頃、西町では能筆で名高い金泉寺屋六兵衛（上野青果店の祖）が塾を開き、塾生は百名を越えた。

①【西町公民館】

西町で一際目を引く西町公民館。おわらで雨に打たれたら不幸中の幸い、2階に踊り手が登場し、ステージとなる。建て替え前は大正時代に旅館として建てられた。人を歓迎する雰囲気はコミュニティーセンターとなった今も受け継がれている。

②【恵比須通り】

明治40年に開通したこの通りには、「恵比須通り」という立派な名前が付いている。もちろん、その名前は西町の曳山に堂々と鎮座する神像恵比須様に由来する。開通して間もなく120年を迎える。

